

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0470201435		
法人名	株式会社ケアサービス 希慈		
事業所名	グループホーム希慈	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市新成3丁目9-17		
自己評価作成日	平成27年 1月30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年3月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は認知症を持つ人を尊重し、パーソン・センタード・ケアの理念を掲げています。日常生活を送っていく中で利用者一人ひとりの生活の充実化、すなわち体も心も寝たきりにさせない心身機能の維持・増進を心がけています。具体的に①余暇支援の向上(散歩や外でゆっくり寛ぐ等、積極的に実行し楽しんで頂く事)②生活のリハビリへの展開(掃除・食器洗い・洗濯・買い物等)に着目しています。職員間もアットホームで笑顔が絶えず、常に利用者様も笑っています。チームケアを大切に日進月歩、利用者様・家族様・地域の方々からも愛される施設を目指しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

震災後に石巻市開成地区に開発された住宅地に所在する事業所は、2月14日21時頃に裏山崩落の落石事故の為、避難地域に指定され同法人のグループホームに1週間ほどの避難生活を余儀なくされた。しかし、現在は落ち着きを取り戻して日常の生活を過ごしている。地域との交流が徐々に図られており崩落事故の際には、夜半にも拘らず近所の方々からすぐに駆けつけ援助の手を差し伸べて頂き、寒い思いをすることもなく迅速に避難出来ている。ホーム全体に木の温もりが感じられ、明るく家庭的な環境の中で入居者は穏やかに笑顔で過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム希慈** )「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念及び各職員の目標を掲げて、ケース記録に添付に常に目を通せるよう整えている。	理念「地域から信頼され、愛される施設を目指します」と、職員個々の目標を掲げ年度末に見直している。落石事故の際は、避難先に向かうまで近所の方が入居者を自宅に招き入れ不安なく過ごすことができた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	11月5日の芋煮会の際には民生委員を招いたり、1月2日に地域の方から獅子舞に来て頂いたり、定期的に地域との交流を図っている。	新興住宅地自体の新たな行事はまだないが、地域で有名な「渡波の獅子舞」来訪があり楽しんでいる。散歩時の挨拶と、事業所主催の芋煮会や花火大会に地域住民の参加があり、徐々に交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	芋煮会を開催した際に、家族・民生委員の方々に認知症の対応方法についてアドバイスさせて頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の際には開催した行事について報告している。また、7月の運営推進会議の際に家族より「魚釣」にいらしたいと要望があり9月12日に行ったり、意見を反映している。	認知症についての説明をしている。外食を楽しみにしている入居者の食事代の不足分負担の報告や、事業所の行事、入居者の状況報告をしている。地域包括職員から虐待防止の勉強会等の情報を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か不安と思う点は常に介護保険課に相談したり、年に1回の実施指導の際には適切なアドバイスを頂き改善している。	崩落事故の時、市の職員が2人即掛けつけ対応して頂いた。成年後見人を利用する入居者の相談をし、具体的なアドバイスを頂いている。県職員2人が終日同行し事業所の内外視察と、外部評価の様子を見て頂いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1月21日に、身体拘束についての内部研修を行いどういった事が拘束になるのか理解しケアに取り組んでいる。玄関等行き来できる場所には常は解錠している。	勉強会で得たスピーチロック等の知識をケアに活かし、拘束の無い支援をしている。かつて入居者が一人で外出してしまい警察で保護された。アドバイスから警察署に写真を預かって頂き、顔見知りの近所の方にも声がけをお願いしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1月21日にマニュアルを参照に虐待防止のための内部研修を行い、職員間で再度共有し防止に努めている。また、月に1回のミーティングの際に利用者への声がけが不適切ではないか、再確認できる時間を設け見過ごされることがないように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後継人がいない利用者に対して、地域包括支援センターの協力を得て後見人の依頼をしたり、ミーティングの際に職員内でもどのようなものか理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約・解約の際には利用者・家族が不安に感じないように常に不安や疑問を聞き、十分に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回の運営推進会議の際に、地域包括支援センター及び民生委員より地元の広報を参考にすると地域の行事等を把握できると意見を頂き、11月1日に地域の歌唱コンサートに参加している。	毎月の支払いを事業所に持参する際に、要望を聞くがあまり出ない。むしろ自宅での習慣はなかった就寝前の入れ歯の手入れをし、義歯がきれいになったと本人が喜んでいることを知り家族が感謝している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の「人事面接」を設け、職員の意見を反映できる環境を整えている。また、月1回のミーティングの際に職員に対して話しやすい環境作りにも努め積極的な意見を発言できるようにしている。	毎月のミーティングは職員が全員参加し、情報を共有している。意見から使い勝手の良い体温計を購入したり、入居者と馴れ合いにならない言葉づかいの配慮等話し合っている。職員を大切にしている運営者の姿勢が伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制について、「希望休制度」を設け職員に対して働きやすい環境を十分に作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修と職員一人ひとりに対して力量を把握し、外部研修に参加してもらっている。また、外部研修に行った際の職員内での勉強会を開催し共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と連携を図り行事等を合同で開催したり、一緒に研修を行ったり交流及び双方のスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プラン後に本人と話し合うことや2週間後のカンファレンスの際に根本的なニーズを抜粋できるよう職員内での話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用契約前に家族が心配事がないように耳を傾け、安心して頂けるよう話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用後、行きつけの病院へ行けるよう施設内でも自宅に居た時と変わらず生活できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一人ひとりの利用者に温かい声かけをしたり、一緒にお茶を飲んだりと関係を築きあげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希慈の基本理念にもあるように、アットホームな雰囲気により一人ひとりの利用者様に対して声をかけ、共に生活し家族のような暮らしをして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や他事業者へ定期的に行ったり、交流関係を維持し関係が途切れないよう努めている。また、震災後からボランティアへ来てくれていた方々とも交流を継続している。	地域の方の踊りや、三味線演奏ボランティアの来訪がある。馴染みの飲食店で外食をしたり、買い物を楽しんでいる。震災後は市内沿岸の景色が一変してしまい、外出の際中学校があった所だね等と懐かしむ事がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日職員と利用者が一緒に食事やお茶を飲んでいる際に談話したり、一人ひとりに常に目配りをし対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際に契約解除になった利用者に対して、終了となっても再利用の相談や経過についての連絡を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソン・センタード・ケアに着目し利用者一人ひとりにあったサービスを提供し、釣り・買い物・散歩といった個別的な対応に努めている。	本人にとって望ましい事は何か、また、望ましくない事は何か、パーソン・センタード・ケア(認知症になってもその人の個性や人生を重んじ、尊厳あるケアの実現)の為に生活支援を目指している。	センター方式のフェイスシートを活用しながら、本人の思いを把握できるよう努力していきたいとしているので期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約の際にその人らしい生活に着目し、利用者及び家族と密に関わっていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの際に常に一人ひとりに対しての現状を話し合い、把握に努め且つ小さなことでも「気づき」を意識し、対応方法でも柔軟に変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新の際には本人や月1回のミーティングの際に話し合う等工夫をしている。また、家族の面会時や必要に応じ電話にて情報共有し作成にあたっている。	モニタリングをし3ヵ月毎に見直しをしている。急変し入院した入居者が、退院後歩行が困難になり車椅子を利用していたが、リハビリをケアプランに入れ支援した結果、自立歩行が可能になった事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で日々の小さな事もケース記録するよう徹底しており、その中から課題及び問題等はないか抜粋し介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調等の変化に合わせて、早期に気づき必要に応じ受診できる環境を整えている。また、その都度の対応にも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にも積極的に参加している。また、芋煮会等地域の方々を招待したり交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も今までと変わらない生活を送って頂く方針を下に、かかりつけ医での通院を継続できている。	職員が付き添い本人のこれまでのかかりつけ医を継続受診し、緊急の場合は石巻日赤病院での対応となっている。受診結果はケース記録に記載し共有している。変化があった場合のみ、家族に知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業者は看護師は配属されていない。しかし、介護支援専門員が適切な対応及び受診を管理し、健康管理ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会での情報共有や地域医療センターとの関係作りを深め、早期に退院できるような対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療が関連したターミナルケアについては、まだ対応した経験がない。しかし、本人や家族と密に話していき共に最後まで寄り添う方針を目的としている。	「ターミナルケア(看取り)について」を示し、家族の同意を得ている。終末期に食べられなくなり医療行為が必要になった場合は、契約解除となりホームを退去する対応になっている。出来る限り寄り添っているが、看取り支援の事例はない。	指針はあるが、家族の意思が把握できていない。家族の意思を十分に尊重出来る様、重度化・終末期に伴う意思確認書を成文化し、現段階で事業所が出来る対応を関係者間で共有して頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時のマニュアルを見るように指示し、避難訓練の際に緊急時の講習を行ったりと理解を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の避難マニュアルを参照に、現時点での避難できる場所の選択肢を周知している事や、地域との協力を得ている。	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。夜間想定で、消防署から「慌てないで誘導すること」等アドバイスを頂いている。近所の方々の協力では、役割分担もお願いして頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業者は全個室でありプライバシーに配慮したり、居室に入る際は必ずノックし対応している。また、毎月の定例会の際に理念にも掲げているように「利用者様と職員を大切にいたします」の方針で接し方も再確認している。	職員と入居者との親しい関係と、馴れ合いの違いを意識しての言葉づかいに配慮している。排泄と入浴支援時、又居室ではカーテンを閉めて着替えをする等、プライバシーに配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、散歩や買い物に行きたい等の想いを大切にできる環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当事業では利用者の生活をリズムに準じ、「タイムスケジュール」を参照に業務にあたっている。また、その時の利用者の想いに耳を傾け対応できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容面で自室に洗面台を設け、身支度ができるような環境に配慮している。また、地域の理容院に行き、本人の希望に沿った髪型にしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事毎に食事を工夫したり、時折気分転換を兼ねて外食好きなメニューを選んだりしている。	週2回の希望食ではカレーライス等のリクエストがある。知り合いの魚屋から新鮮な食材を購入し食卓に載ることが多い。食前には嚥下体操をしている。さりげなく介助をしながら、職員も同じものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	市の栄養指導に準じ、献立に工夫したりバランス良い食事を提供している。また、嚥下状態等に考慮し一人ひとりに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に歯磨きをして頂くように声がけし、積極的に自分で歯磨きして頂けるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁がある利用者に細かいトイレ誘導や自力で排泄できない利用者に関しては定時にポータブルトイレに誘導し自力で排泄できる環境を整えている。	排泄チェック表でパターンを把握している。出来るだけ自立で、おむつを使用しない支援をしている。個々に合った対応と、パットの使い分けで現在おむつを使用している方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況に応じ、「下剤管理表」にて改善している事や、毎日1回ヨーグルトを提供したり、食物繊維を多く含む寒天ゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「当日入浴したい」という要望に関してはその希望に沿っている。また、入浴前に「何時に入るか」利用者にきちんと声がけし対応している。	毎日沸かしているが、週3回の入浴である。体調が優れない場合は、シャワーチェアを利用したの支援をしている。職員とゆっくり昔の話をしながら入浴する方もいる。入浴拒否や拘りのある方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体面で休息が必要な利用者に対しては、随時自室にて安んじている。夕食後もその利用者に合わせ常にホールを開放しテレビやお茶を飲んで過ごしてもらい、一人ひとりの睡眠リズムを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	別紙「薬管理表」にて一人ひとりの薬がどのような効果があるか表記しており、且つ用法及び用量についても細かく記載している。また、一人ひとりの職員が毎日薬をセットするので薬に関しては十分に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「できることはして頂く」を方針にお手伝いには積極的に行い役割を持った生活を送っている。余暇に関しては地元の広報を参考に行事に積極的に参加し、また生活歴を考慮し釣り等にも行ったり取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で「散歩にいきたい」という要望に関して、直ぐに要望に応えられるような環境を作っている。積極的な外出支援はしているものの、職員間でのスケジュールを組んでおり、家族の協力をまだ得られていない。	日常的な散歩時に、裏山から湧き出る水をプールし飼っている金魚を眺めるのを楽しみにしている。近隣に在る専修大学構内の観桜をして学生食堂で食事をしたり、予約すると刻み食も準備してもらえらる寿司屋に全員で出かけ外食している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で所持したい利用者に関しては自分で持って頂いている。欲しい物がある際は都度買い物できるような環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは自由で要望があった際は電話をお渡ししている。手紙も希望があればやりとりできるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の空間はとても穏やかな設計で、且つ今までと変わらない生活を送って頂くために馴染みの物を自室に飾れるような環境を整えている。また、ホールには毎月での行事を写真や吹き出しで掲示したり季節感ある取り組みを行っている。	高い天窓から差しこむ日差しが明るく広いリビングにグリーンの鉢物がマッチし、つるし雛や五月人形が季節を感じさせる。使い勝手の良いアイランドキッチンが据えられている。掛け時計は、入居者が見やすい位置に工夫をお願いしたい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全自室は個室になっており、自分らしい環境のもと過ごしやすい空間を作っている。また、ホールは自由に席が座れる雰囲気テレビや談話をしたり、職員も笑ったり明るい雰囲気利用者の憩いの場として努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるかぎり安心して生活して頂くためにも、慣れ親しんだ物を持って頂くよう家族にお話している。また、その都度家族と連絡しなるべく今まで使用していたものを持参して頂き、不安がない生活を送って頂くように努めている。	事業所が被災し、自宅もまた津波に流されている事もあり、拝見した居室ははっきりしているが馴染みの物の持ち込み等は少ない。本人の趣味の物など、自分の部屋らしいもう一工夫をお願いしたい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自尊心を考慮し本人らしい生活を送って頂くために、生活リハビリ等、日々の生活の中で役割を持った接し方に配慮している。		